

# 自友会会報

編集責任者 洋川千藤  
大阪医科大学  
附属看護専門学校  
No. 2  
平成10年4月

## 会長あいさつ

白友会会長

勢川 瑠美子



平成10年の幕明けをきびしく受けとめて早くも3月も残すところ僅かになりました。同窓生の皆様にはお変わりなくお過ごしでいらつしやいますでしょうか。

私達白友会役員一同は会員の皆様に母校の現状をお知らせすること、同窓生の集いを紹介することで、縦・横のつながりを想い出していただき、絆を一層強めるためにどのような内容で会報をお届けするのが少しでもお役に立つかについて話し合いをして参りました。私達の意とするところがお伝えできれはうれしいのですが、これを機会に会員の皆様からの忌憚のない御意見等もいただきたいことをはじめにお願

致します。

平成9年をふり返りますと、10月4日には高槻現代劇場に於いて大阪医科大学創立70周年記念式典が挙行されました。本学グリークラブによる国歌斉唱、関係者物故者への黙祷が行われ、田中理事長の式辞、藤本学長の挨拶に続いて、文部大臣、厚生大臣、日本私立医科大学協会会長、大阪府立医師会長、高槻市長の祝辞を戴き、盛大な中にも厳粛に終了しました。式典終了後、中山太郎衆議院議員(本学昭和27年卒業)の記念講演が行なわれました。「国際医療協力」との演題で、元外務大臣としての豊富な経験に基き、グローバルな医療問題について、中広い見識と先見性が示されました。講演終了後、同文化ホールで記念祝賀会が開催され、来賓の方々をはじめ、同窓生の方々、現職員と共に

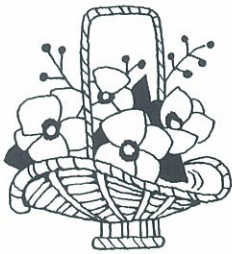
交友を深め楽しむことができました。

今年に入りまして、医療環境は私立医科大学に対してもきびしさを増し、「病院経営検討委員会」の発足等、時代のニーズを反映した委員会活動が強化され、病院長、教授をはじめ事務局、各部門の職員が一体となりこの時期を乗り越える努力を致しております。

一方看護部はケアの質を高めるための卒後継続教育、研究へのとりくみをベースに、地域とのネットワーク作りのために、ヘルパー2級、3級受講者のための実習指導を引き受ける等、時代に添った協力、支援を可能な限り実施しています。

医療に携わる限り「これで良い」とのピリオドは打てません。一層の努力と研鑽の必要を自覚し、同窓の先輩、後輩に誇れる病院づくりに邁進しております。

次の機会におめにかかれる日まで皆様の御健康と御発展を祈念致しております。



## 大阪医科大学創立七十周年記念式典



大阪医科大学創立70周年記念式典

# 白友会の皆様へ

白友会名誉会長

東 郁 郎



平和な時代にあつて、国難とでもいうような政・財界の乱れは嘗々と築き上げてきた日本を連日揺るがせて新年度を迎えようとしています。

平成8年6月1日に大阪医科大学附属看護専門学校同窓会（白友会）が設立されて、平成9年4月第1回の会報が発行されました。私は平成9年度から看護学校長として勢川会長、橋本副会長はじめ看護学校の教職員の方々と共に、この1年間在學生に接してきました。常に教えられることの多い日々であつたといえます。

いうまでもないことですが、永い間大阪医科大学附属病院における診療に、本校の卒業生がどんなに活躍し貢献してきたかは、多くの患者さんから寄せられた高い評価から伺えます。これは三好、藤本、勢川看護部長と続く歴代の指導者の薫陶の賜ものと思ひますが、時代を越えて今後も変わることなく患者さんとその周りの人達に対する心豊かな良質の看護の実践を目指して日進月歩の医学・医療に対応してきた皆様

によるもので、常々感謝と敬意を禁じ得ないところであります。

先日も看護学生の看護事例研究の真剣な発表を聴きましたが、受け持った患者さんから色々貴重な教訓を学生が学びとつてゆく過程がよく分かりました。例えば進行性筋麻痺で治らないことを知っている患者を励ましてリハビリを支えていた体験報告や、看護を拒否する患児の心の扉を次第に開いていった事例など、同じ大学で学ぶ医学生にも是非聴かせて討論に参加させてやりたいと思ひました。

本学創立70周年の記念誌にも寄稿しておきましたが、看護学校の教育カリキュラムの中味も改定されて、独自性のある教育内容を単位制で教えるようになりました。

今後、超高齢社会の中で、介護や福祉の分野に拡がってゆき、介護職や福祉職の関係職種の方と共通の基盤に立てるような教育を受け、将来の看護の仕事に巣立ってゆく後輩に対して、多くの先輩、同窓の皆様にはどうか温かい御指導、御支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

# 平成9年度活動報告

白友会副会長

橋 本 豊 子

春暖の候、皆さまにはますますご健勝のことと心よりお喜びを申し上げます。

平素は同窓会活動にご支援をいただき厚くお礼を申し上げます。お陰様で平成10年度4月予定通りに会報2号発行の運びになりました。

会報2号発行にあたって、平成9年度の役員会並びに活動状況についてご報告申し上げます。

現在、同窓会会員は延一二二七名となりました。

## 〈役員会の開催状況〉

1回・平成9年6月9日（月）

14時～15時

## 議 題

- 1・会報（創刊号）発行を終えて
- 2・会報2号発行に向けて
- 3・大阪医科大学創立70周年にあたって
- 4・その他

2回・平成9年10月20日（月）

14時～15時

## 議 題

- 1・会報2号編集（案）

2・その他  
3回・平成10年3月20日（金）

14時～15時

## 議 題

- 1・会報2号編集
- 2・その他

## 〈活動報告〉

1・白友会会報（創刊号）の作成

## 配 布

- 会報配布一四五部
  - 2・母校教育活動への協力
- 大阪医科大学附属

入学式・戴帽式・卒業式に「祝電」

祝電は、式典において後輩達の喜びを同窓生としても共によるこび祝福する目的でメッセージを贈っています。私達の仲間として、一緒に看護を行える日を楽しみにしております。



メッセーじの紹介(卒業式)

第一看護学科13回生、第二看護学科29回生の皆様全員揃ってのご卒業、おめでとうございます。2年間、3年間で学んだことを活かし、専門職業人として、やさしく、思いやりあふれる看護を実践して下さい。

今後の新しい社会でのご活躍を期待しております。健康に留意し素晴らしい明日を育んで下さい。

卒業にあたり、同窓生一同心よりお祝い申し上げます。

大阪医科大学附属看護専門学校  
同窓会「白友会」会長  
勢川 瑠美子

今後の同窓会活動に際して、各分野で活躍の会員の皆様からの一報をお待ちしております。



母校の近況報告

白友会会計

城戸 滝枝

学校では、平成10年度の入学試験も無事終了しました。

平成9年度は、第一看護学科13回生41名、第二看護学科29回生41名、計82名が3月3日に卒業式を終え、本校より社会へと巣立っていきました。卒業後の進路は、附属病院就職、保健婦・助産婦学校進学、他院への就職、その他です。

平成9年度は、新カリキュラムの実施に向け、講師の方々のご協力を得ながら教員一同討議を重ねています。

今回の母校の近況報告は、学生の主体性を育むことを目的とし、病院との連携を持ちながら、効果を上げている「ナイチンゲール生誕祭」について紹介します。

本校では、平成3年度より全学年参加のもと、ナイチンゲール生誕祭を実施し、平成9年度で8回目となりました。学生は式典を通して、看護を考えるよい機会となっております。

目的

ナイチンゲールの業績と歴史を知り、看護への認識を深める。

企画・運営

各クラスから選出された学生と教員の生誕祭委員が中心に定期的に委員会を持ち準備をすすめている。

実施日は、ナイチンゲール生誕の日(5月12日)に近い日を設定している。

プログラム

ナイチンゲール生誕祭

- 一、開式の辞(学生・生誕祭委員)
- 二、ナイチンゲールの業績と歴史
- 三、聖灯拝受(代表者)
- 四、ナイチンゲール誓詞斉唱

紹介(代表者)

- 五、「看護に対する想い」発表
- 六、献花(全員)
- 七、ナイチンゲール賛歌合唱
- 八、閉会の辞(学生・生誕祭委員)

(全員)

(全員)

式典終了後、

病棟の患者さんを訪問

式典終了後は、小グループに分かれて入院中の患者さんを訪ね、花とメッセージカードとともにお見舞の言葉をのべています。緊張して言葉のかけられない学生もいますが、患者さんが学生の訪問を楽しみにしてくださっている姿や激励に感激し、看護婦を目指していることの再認識にもなっております。

私達教員は、今後も学生が人間性豊かに成長していけるような関わりをしていきたいと思います。

以上、学校からの報告とさせていただきます。



献花風景

# 実習病院よりの報告

白友会書記

神谷 美佐子

白友会の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。大阪医科大学附属病院看護部の歴史は教育的風土が培われており、現在も受け継がれています。このような状況の中、大阪医科大学附属看護専門学校の一課程の実習並びに藍野看護短大および高槻医師会看護専門学校の実習生を受け入れています。看護部長の指導のもと部長、主任、臨床指導者が指導にあたり大きな成果をあげています。また高校生の一日常婦体験や、看護の日を記念してのふれあい看護体験、潜在ナースの看護実習そしてホームヘルパーの実習等地域との連携を大切にしながらネットワークのキーパーソンとしての重要な役割を担っています。これらのことは勢川看護部長の教育的な計らいのもと推進できていると、今後も継続していく必要を感じています。また、看護部長は大阪府看護協会の理事として活躍されており、平成9年は大阪府で「なみはや国体」が開催された折には、救護班として多くのスタッフが協力にあたりました。

学内に於いては看護部の役割や実績が認められてきました。その一部を紹介いたしますと、定例の臨床部長会におきまして、毎月一回は看護部長が出席し、看護の重要性や役割について発言する機会があることは看護スタッフの大きな励みとなっております。また例年10月に現代劇場(旧市民会館)で挙行されています解剖慰霊祭においては、代表焼香に看護部長が指名され、ご遺族への拝礼にとめられるようになりました。この事は日々看護にあたり患者さんより学びを与えていただいている私達にとり、大きな支えとなっております。病院においては、昨年6月よりスタートしましたオーダーリングシステムにも



解剖慰霊祭

大分慣れ、大きなトラブルもなく経過しています。今後とも患者中心の看護をめざしスタッフ一同邁進していきたいと思っております。以上、実習病院からの近況報告とさせていただきます。

## 役員会からのお知らせ

〔慶用規定について〕

役員会において検討し、左記のような内規を定めました。

- 1. 慶事の対応
- ・ 基準

個人を対象に国レベルの慶事とする。

例 叙勲・受賞等

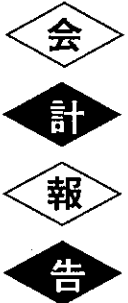
・ どのようなお祝いをするかについては、その都度役員会を開き決定する。

・ 会計上は予備費(雑費)からの支出とする。

- 2. 用事の対応

・ 一般会員の用事に際しては氏名を「会報」に掲載し、総会の席で黙祷を捧げる。

・ 歴代の顧問・会長には用電と楳とする。



< 収 入 >		
項目	金額	備 考
繰越金	9,441,873	
会 費	820,000	新入会員 9年度卒業生 82名
合 計	10,261,873	

< 支 出 >		
項目	金額	備 考
事業費	351,960	白友会会報発送
会議費	0	
管理費	45,339	白友会専用書庫、金庫
予備費	6,450	祝電代 (入学式・戴帽式・卒業式)
合 計	403,749	
繰越金	9,858,124	



# 恩師からの

## メッセージ

### 「看護婦の使命」

大阪医科大学名誉教授

大阪医科大学附属看護専門学校

非常勤講師(微生物学担当)

中井 益代

私は大阪医科大学病院に数回も入院し、大変お世話になった。その都度、看護の世話をしてくれる看護婦さん達は殆んどいつてよいほど私の微生物学の講義を受けた人達である。入院する以前にはこんなことを知らないといけない、貴女達は素人でないのだから患者さんには専門の内容を判り易く説明してあげなさい、そのためにはよく理解することが必要である事を講義の時に話して来たが、いざ自分が入院すると病気のおこり方や症状を細かく説明してくれるより一日も早く治りたい気持ち一杯であるため、看護婦さんが親切に言葉優しく看護してくれることの方が大切であると思うのである。どんなに丁寧に病状を説明してくれるより優しい言葉で看護してくれると病が

治ったように感じるのである。昔から「病は気より」といわれるように親切心は薬よりまさるものであると感じるのである。これは今日的に精神医学的に必要なことであると多くの専門家もいつている。

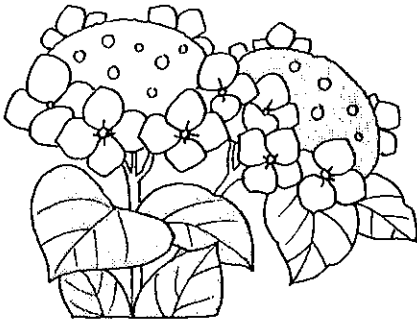
病因論も大切であるが、やはり人に接する職業は人の心を見、人の心を治すことが大切であるつくづく感じるのである。これは入院した患者でないのと判らないのでなからうか。大阪医科大学の看護婦さんは本場に立派である。この事を実施しているのだから。他の病院とくに国立病院では学問的にはすばらしい看護婦さんもいるが、人の接し方が出来ていない人がいる。これでは看護業務は零であるし、人間として人から尊敬もされない。

看護婦学校も殆んどが大学となり、学問レベルが上昇するが、それ以上に人の接し方が上昇してもらいたいものである。特に看護婦さんの国試には面接を入れ人への接し方が重要であることを強調してもらいたいものである。この事が本場の看護学ではないだらうか。

付記

本看護婦学校にも同窓会が出来たことは大変喜ばしいかぎりである。同窓会とは一つの学舎で苦楽を共にした人

達が何時までもその当時の事を語り合つて親睦する会である事は誰も知っているが、時として、それを逸脱し、恰も集団が自分自身の言動に従っているのではないかと錯覚をおこし振舞う人がいる。ほんのひとにぎりの人であるだろうが、他の多くの人はそんな行為をせめるでもなく放っておくのである。なぜならば、親睦は互いに人を責め合う会でもなく、楽しく友と語り合う会であることを知っているからである。責め合う同窓会になって欲しくない、いつまでも楽しい親睦の会であることを願つて止まないのである。こんな会が長く長く続いてほしい。こんな会が学校を発展さすのでなからうか。



### 思い出の窓

#### 「思い出多き看護学生時代」

新制看護婦学校1回生

加藤 道子

昭和25年新制看護学校1回生として入学した私たちは、新制の1回生ということで大学、病院関係者職員の皆様が新しい時代を感じとも関心を持ち見守つて下さる事を強く感じる日々でした。クラスの意識も「新制1回生なんだから」と気持ちを高揚させ、「古いことは変えなければ」なんて一年生にもかかわらず「寮会、総婦長スタッフ学生参加」の中で発言する者、さらにそれをクラス全員で支援し、先輩たちからは、何と生意気な、いやいやたのもしいと、物議をかもしたりしました。しかし私たちの提案は取りあげられ改善されてゆきました。その中に「外来の掃除は学生だけでなくスタッフ責任者全員でやりましょう」「医師の白衣の世話を洗濯するのはおかし。私たちはやりません」等おかしと思うことを発言し、そのように行動しました。今でもクラス一致団結しよくやったなとクラス会の度に話題となり、目の前の出来事のように意気盛んに語り合うことの一つです。

私のクラスは、皆個性あふれ、仲々のしっかり者が多く年上の人のように

思えました(言いかえれば私があるりにも幼くて、ボーとしていた)。私はいつも思っています、私の師の第一歩原点は同級生だと。朝な夕な共に過ごした貴重な生活の中で友から学び得たことの多さは、私を自然のうちに大人として成長させてくれました。授業は厳しくても、授業が終わるのを待ちかまえている医局の先生方と、バレエボールやテニスを楽しんだこと、少しの間をみつけてはどこにいてもよく歌を唄ったこと、コーラス、演劇に熱中したこと、よく学びよく遊びの日々。私の青春は還暦を超えても尚青春の中にあります。

咲きさきし櫻の下に坐して見ん  
酒よし友よしたの樂し

道子駄作  
奈良水室神社しだれ櫻の下にて



白友会の皆様、会いたいなあーと熱く想っています。それでは皆様ごきげんよう。

学校の歴史紹介(その1)

### 旧看護婦学校時代

昭和5年8月、梅田病院より移転してきて、旧看護婦学校が開設されました。

写真はその当時の「包帯法」講義風景です。

教室は「忠」「孝」の軸のある看護婦寮で、学生と共用していました。



### クラス会だより

#### 「二八会北海道旅行記」

新制看護婦学校2回生

福場 寛子

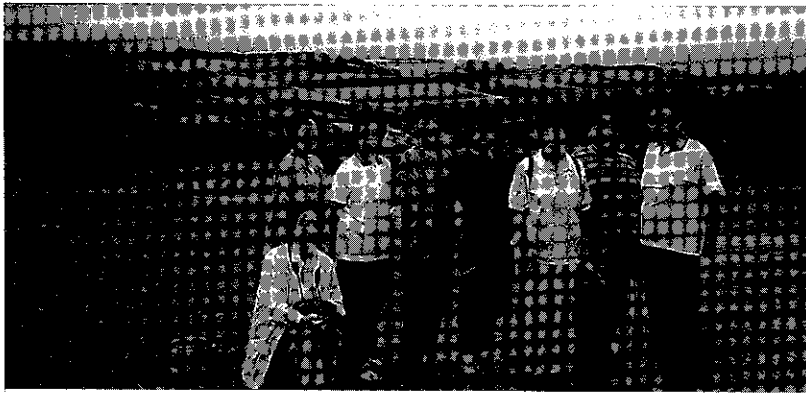
(旧姓 塩見)

私達は卒業年度に因み二八会ふたはちの名称で奇数年に同窓会を開いています。幹事は順番制で例年十名前後が集います。その資料や記録は全て一冊のノートにファイルされ当番幹事に引き継がれます。平成七年京都大原での同窓会で「次回は北海道に行こう」と衆議一決し私が幹事になりました。昨年七月に三泊四日の北海道旅行を実施しましたのでその一部を御紹介します。参加者八名でした。

一日目は歴史の街小樽散策です。運河沿いに建ち並ぶ石造りや煉瓦造りの倉庫群が港町として繁栄した時代の名残を止めていました。「北一硝子」や「オルゴール堂」はこの古い倉庫を活用しているのです。市内の立派な建造物に往時の榮華が偲ばれました。宿泊は札幌市内のホテルです。夕食は「すすきの」の郷土料理店で新鮮な魚介類のお刺身等食べきれない程の料理と呑み放題で積もる話に花が咲きました。

二日目はラベンダー咲く富良野へ大きなリュックを背負っておばさん蟹族の移動です。富良野ではジャンボタクシーで観光して廻りました。冷夏の為開花は遅れ気味でしたが早咲きのラベンダーが満開で紫の可憐な花が風にそよぎ仄かに甘い香りが漂ってとても素敵でした。薄紫のラベンダーアイスを食べて皆さん満足そう。なだらかに広がる美瑛の丘の田畑は色とりどりの布を接ぎ合わせた様に見えるので、パッチワークの丘と呼ばれているそうです。全員で記念写真を撮りました。十勝岳に向かう山道で北狐がひよっこり姿を見せ、車窓から投げたお煎餅を拾って草の陰に消えました。宿泊は新富良野プリンスホテルです。夕食後は売店で孫達のお土産選びに忙しい皆さんでした。

三日目札幌に戻り半日自由行動としました。北大のポプラ並木やクラーク博士の像を見学して美術館に行った人、デパート巡りをした人、それぞれに過ぎて十六時再集合し、札幌の奥座敷定山溪温泉へ行きました。オープンして間のないホテルには広々とした大浴場に露天風呂、泡風呂、うたせ湯等あり、ゆったり温泉に浸かって旅の疲れをほぐしました。最後の晚餐は和食会席膳を頂きました。四十数年前同じ釜



美瑛の丘にて

の飯を食べべ同じ目的に向かって頑張った日々を回想し思い出話は尽きず、夜は更けて行きました。翌朝十時ホテルのバスで札幌駅へ。空港に向かう皆さんと平成十一年に元気で再会出来る事を願いつつお別れしました。短い旅でしたが好天に恵まれて爽やかな北国の大自然を満喫し変わらぬ友情を再確認した旅になりました。

### 「ひまわりの会」に寄せて

准看護婦学校9回生  
二年課程定時制2回生

平井 三代子  
(旧姓 金田)

昭和38年度准看護婦学校卒業第9回生27名、昭和43年度看護婦学校卒業第2回生10名、総勢30名が大阪医大附属准・看護婦学校で学んだ同窓生ということになります。

卒業後、同窓生の自宅や、またヨチヨチ歩きの子供を連れて神戸六甲山で、そして小学生の子供と共に過ごした鎌倉等、各々6、7名の小さな集いがありました。その後中断していましたが、平成7年7月大阪にて、すっかり熟年に達したそれなりのオバサン顔で18名も相まみえることが出来たのを機会に、「ひまわり会」と命名し、今後2年毎に会を持ちましょうということになりました。そして昨年第2回目のひまわりの会で、子供連れで訪れた同じ鎌倉に9名が集まりました。病院勤務3名、老人ホーム勤務2名、さらに託老所経営、喫茶店経営、母校教務課勤務、専業主婦が各々1名と、にぎやかに集いました。

宴会の途中から、再会の欲びを交えて、いろいろ語らいが始まりました。職場での奮闘ぶり、病氣、失意、子供

の結婚・出産をはじめ家族の悲喜ごも、大小各々山あり谷ありを経て、今50代を迎え充足感の中にも何かし残したものがあるような、久々の懐かしさに少し感傷的になったようです。翌日はもっぱら寺社めぐりになりました。

大仏様はもちろん、鶴岡八幡宮でも建造物の雄大さに感嘆し、建長寺、明月院では日本庭園の美しさに魅せられ、また報国寺での清々しく、恍々しいまでの竹の美しさを観賞し乍らいただいたお抹茶の味わいは忘れられません。境内に立ち並ぶ商店を物色したり、朱印帳を持参して、訪ねる先々で記帳を受ける光景もあり、気候も最高の秋の鎌倉にて、また一つ想い出のページを重ねました。

同窓生の皆さん、次回平成11年は広島(尾道)の予定です。きつとお会いしましょう。

話は変わりますが、一昨年同窓会「白友会」設立総会の折り、青春時代を過ごした第2のふるさと大阪医大を卒業後初めて訪れ、その大きな発展ぶりを目のあたりにして、大いに誇りにも、欲びにも、また力強くも感じました。

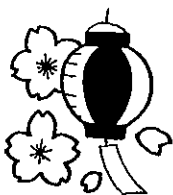
白友会の名簿をながめては臨床でお世話になった方々をも思い出し、改めて感謝の気持ち深めております。次回「白友会」開催を楽しみにしております。

同窓生の皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



建長寺にて

学校時代の思い出、クラス会の活動状況等、ご投稿をお待ちしています。



# 新入会員紹介

(平成9年度卒業生)

## 第一看護学科13回生41名

伊藤	かずみ	野村	恵子
上田	みほこ	畑見	愛子
内島	智美	濱	容子
岡	春奈	林	順子
小畑	里絵	廣瀬	和香子
柏本	麻衣子	福田	直美
上山	友紀	前田	奈々美
小林	美香子	拙	由美
小齊	藤由美	南	奈津子
佐藤	崇子	村上	かおり
澤井	知子	望月	淳子
椎野	優子	森本	友子
島尾	珠美	柳井	千秋
清家	洋子	山下	千秋
相田	裕美	山下	陽子
高瀬	亜紀	山下	淑子
辻香	織子	田根	晃美
長嶧	美奈子	山崎	美聡
名村	純由紀	山吉	佳織
西野	下綾	吉	

## 第二看護学科29回生41名

青山	美加子	高木	和子
石井	雅子	高橋	雅代
岩田	妙子	高山	祐子
上田	明美	竹川	秀子
榮留	美沙	谷川	睦美
江崎	麻美	長瀬	知恵子
太田	千香世	中野	睦美
沖野	希美子	中平	順子
甲斐	志乃	南光	かおり
川嶋	薫	秦	涼子
神原	美保	濱地	加代子
貴志	恵織	濱中	由美子
清田	紗織	日高	由美子
越野	めぐみ	宝崎	恵理
小手川	幸代	堀	摩季子
近藤	恵子	前田	美貴
財津	友紀	松下	由貴子
酒井	照代	松田	礼果子
嶋田	多津	山下	公節子
杉村	絵里	山田	
高尾	涼子	和	

### 編集後記

創刊号以来一年ぶりに、皆様のお手元に「白友会会報」をお届けできることになりました。

まず、前号において本会報のネーミングを募集いたしました。現在までご応募はございませんので、「白友会会報」の名称を継承することをご報告いたします。

第2号の編集方針としまして、誌上を通じて会員相互の交流が図れるようにと、前号の企画に加えて「クラス会だより」や「学校の歴史紹介」の新企画をスタートさせました。「学校の歴史紹介」は今後シリーズとして、歴史を一コマずつ連載していく予定です。

このような意図の反映した誌面となりましたかどうか、会報担当者として気掛かりなところがございますので、当会報についてのご意見・ご感想などお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、お忙しい中、快く原稿執筆をお引き受けいただきました皆様へ深く感謝いたします。

会報担当

神谷美佐子  
坪内 操  
藤川 千洋